備　前　市　施　策　評　価　シ　ー　ト

施策名（小項目）	歴史文化の活用と伝統文化の継承	コード	02-03-10

作成者		
	役職	生涯学習課長
	氏名	高橋清隆
	電話	64-1841
このシート作成に要した時間		2.0　時間

この施策のアピールポイント

本市には、日本を代表する焼物「備前焼」や近世の教育資産「閑谷学校」、また多くの文化財があり、後世に引き継ぐとともに広く活用していきます。

この施策の平成28年度の施政方針

【生涯学習課】
今後も市内に所在する国県市指定文化財をはじめ「地域のなりたちの証」である地域文化資源を後世の人につないでいく事業を実施するとともに、その価値を明らかにし魅力を発信していくため、調査研究を行っていきます。
【秘書広報課】
旧閑谷学校については、日本遺産　「近世日本の教育遺産群　－学ぶ心・礼節の本源－」　の一つとして認定されたことから、関係市と連携し、より戦略的に世界遺産登録に向けて事業を推進してまいります。
また、備前焼についても日本六古窯による連携型で日本遺産認定を目指すとともに、備前焼ミュージアムにおいて特別展や企画展等を開催し、備前焼の伝統継承、産業・観光の振興を推進してまいります。

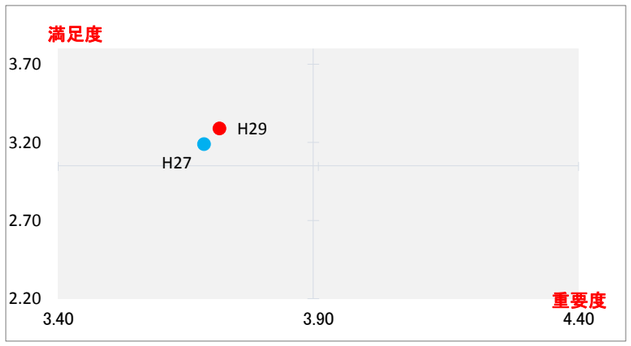
＜備前市総合計画の内容から記載する＞

① 政策の体系	基本構想（大項目）	自己実現施策「生涯学習、歴史、文化」
	基本計画（中項目）	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち
② 対象と目的（誰のために、何のために）	旧閑谷学校や備前焼をはじめとするびぜんの歴史や文化財に関心のある人に対し、積極的に公開活用し、地域の人の手で保存継承します。	
③ 現況と課題（総合計画から現在の問題点を抽出）	備前市内には、旧閑谷学校、備前焼、瀬戸内海からの海産物、山々の自然環境など、豊かな歴史、文化、自然があり、それらは備前焼などの窯業をはじめ、現代の生活の中で脈々と息づいています。これらの地域文化資源は、まちを構成する重要な要素となっていることから、大切に守りながら後世の人につないでいくとともに、それらの価値を十分に理解し、まちづくりに生かしていく取り組みが必要です。また、市内各地域には古くから伝わる祭りや芸能が数多く残っており、地域の人々の手で保存・継承していくことが望まれています。	
④ 施策展開（総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出）	▪ 地域文化資源を適切に保存し後世に伝えます。 ▪ 地域文化資源をまちづくりに活用します。 ▪ 地域文化資源をニーズに合った方法で情報発信します。 ▪ わかりやすいガイダンス施設を拡充していきます。 ▪ 伝統文化を適切に保存します。 ▪ 旧閑谷学校の世界遺産登録を推進します。 ▪	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度		H27	H29
重要度（%）		3.68	3.71
満足度（%）		3.19	3.29

《グラフにおける領域の説明》



調査結果に対するコメント、市民の反応等（調査対象でない施策は、市民の反応等）	重要度・満足度ともに上昇しています。市民意識調査では、備前焼や閑谷学校を生かし切れていないのではないかというご意見をいただいています。

⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

施策に対する成果指標名		単位	過年度実績 H26	過年度実績 H27	評価年度 H28	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
成果指標 文化施設の年間入館者数	目標	人	8,000	8,000	10,000	市で管理運営する歴史文化施設（歴史民俗資料館・加子浦歴史文化館・埋蔵文化センター・吉永美術館）への入館者数	H28	10000
	実績	人	6,215	10,517	14,144		H32	19000
	達成率	%	77.7	131.5	141.4		H34	20400
	ベンチマーク						―	―
参考指標① 指定文化財等対応件数	目標	件	160	160	150	地域内文化財や文化遺産の調査・管理対応件数	H28	150
	実績	件	160	140	165		H32	160
	達成率	%	100.0	87.5	110.0		H34	160
	ベンチマーク						―	―
参考指標② 閑谷学校のことを来訪者に説明できる市民の割合	目標	%	63.0	63.0	63.0	【市民意識調査】（H26・28は実施せず）	H28	63
	実績	%	62.7	－	54.4		H32	64
	達成率	%	99.5	－	86.3		H34	65
	ベンチマーク						―	―
参考指標③	目標						H28	
	実績						H32	
	達成率	%					H34	
	ベンチマーク						―	―

⑦ 目標達成に必要な新規事業（裏面 施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
文化ｽﾎﾟｰﾂ課	文化活動推進事業	所管は違うが、連携で相乗効果が期待できる事業である。
中央公民館	図書館運営事業	各種文献とその地の歴史文化を紐解く上で図書館機能との連携は欠かせない。
学校教育課	小・中学校運営支援事業	学校の授業においては、可能な限り実際の文化財を活用しながら指導することが望まれる。

⑧ 施策の評価

項目		評価	5：非常に高い　4：高い　3：どちらともいえない　2：低い　1：非常に低い 判　断　理　由　（なぜ、そのランクと評価したのか）
1	＜成果指標の妥当性＞ 施策の目的・成果を表現しているか？	3	「芸術文化に接する機会があった市民の割合」の方が望ましい指標だと感じますが、市民意識調査が隔年実施のため、入場者数を指標としています。
2	＜事業構成の適当性＞ 手段は最適か？	3	地域文化資源の保存や伝統文化の保存という視点だけではなく、まちづくりを含めた活用と積極的な情報発信が必要だと思います。
3	＜施策の有効性＞ 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	3	入場者数については、備前焼ミュージアムと数字を合算したため多くなっています。しかしながら、せっかくの地域資源も文化施設がばらばらと点在している状況では、なかなか入場者数は増えない状況です。施設の集約を図る必要があります。
進行年度(H29年度)の取組内容（課　題　解　決　状　況）			備前市歴史文化基本構想の改定作業に取り組む予定です。その中で文化資源の活用についても議論していく必要があります。
翌年度(H30年度)の取組目標			文化庁の指導をいただきながら、備前陶器窯跡の公有化を予定しています。趣向を凝らした企画展を実施して行く予定です。
二次評価者コメント 役職：教育部長 氏名：川口　貴大			文化財の活用は新たな課題である。観光担当課などと連携しながら取り組んでいきたい。
基本施策への貢献度			4　やや高い

施策		事務事業名	直接事業費 H26	直接事業費 H27	直接事業費 H28	構成比	前年比		人件費H26	人件費H27	人件費H28	人工数 H26	人工数 H27	人工数 H28
10	1	文化財保護管理運営事業	32,759	15,133	10,315	11%	68%		10,610	11,532	15,095	1.29人	1.47人	2.22人
10	2	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業	3,027	4,105	2,774	3%	68%		7,806	13,040	11,279	0.78人	1.27人	1.16人
10	3	備前焼ミュージアム管理運営事業		12,225	49,506	54%	405%		-	7,316	14,316	-	0.90人	2.03人
10	4	歴史民俗資料館管理運営事業	9,184	10,966	8,902	10%	81%		1,750	1,318	1,040	0.20人	0.15人	0.14人
10	5	加子浦歴史文化館管理運営事業	5,433	4,685	5,868	6%	125%		8,141	6,567	739	1.01人	0.84人	0.09人
10	6	埋蔵文化財管理センター運営事業	9,041	10,857	11,867	13%	109%		1,338	1,013	5,017	0.14人	0.11人	0.57人
10	7	吉永美術館管理運営事業	566	542	485	1%	89%		228	76	238	0.03人	0.01人	0.03人
10	8	芸術文化活動推進事業	955	1,243	2,792	3%	225%		5,707	3,743	10,251	0.61人	0.51人	1.27人
10	999	歴史文化の活用と伝統文化の継承	60,965	59,756	92,509	0.4%	3%		35,580	44,605	57,975	4.06人	5.26人	7.51人

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成7年～
総合計画	大項目	基本目標	02　自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」
	中項目	基本施策	03　豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち
	小項目	施策	10　歴史文化の活用と伝統文化の継承
事務事業名			01　文化財保護事業

根拠法令・例規等	文化財保護法
問合先 担当課（室）	生涯学習課
職・氏名	文化財係長　石井　啓
電話	６４－１８４１
このシート作成に要した時間	3.5　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	文化財や地域文化などに興味がある人全般
目的（何のために）	文化財や地域の文化遺産を保護、活用することで、地域文化の向上を図る。また、六古窯の一つと言われながら、調査、研究が遅れている備前焼について、その歴史についての未解明な部分を明らかにしていくと同時に活用を図る。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	地域の文化財や文化について多くの人に情報提供することで、郷土の文化財の保護や活用について興味や理解を促し、貴重な文化財を後世に引き継ぐという認識を深める。

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
文化財保護管理運営事業	・指定文化財の保護保存のため、国指定文化財真光寺本堂・三重塔防災設備修理への補助、伊部南大窯跡その他史跡等の草刈を実施。国指定史跡「備前陶器窯跡」の一部公有地化を実施。	◎

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
指定文化財等対応件数	目標値（A）	160	160	150	160
	実績値（B）	160	140	150	到達目標値
	達成率（B/A）	100.00%	87.50%	100.00%	160

成果指標設定の考え方・式や説明

地域内にある文化財や文化遺産の保存活用が目的のため、調査、確認、事業実施、窓口、電話での問合せなどの対応件数を成果指標とした。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- □ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**B**

効率性の評価

コスト手段

- ■ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ■ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明

文化財関連事業は、地域のなりたちを市民が考える時にその要望が高い事業であるが、具体的なかたちとして未来に向かって営々と続けられる作業は短期間で成果の出にくいものである。今後も平成25年度に策定した「歴史文化基本構想」の具体的メニューをもとにまちづくりの資源として、文化施設と連携をしながら着実に推進していく必要がある。

事業費等

事業費等		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	32,759	15,133	10,315
	必要人員 人件費	千円	1.29人 10,610	1.47人 11,532	2.22人 15,095
	事業費計	千円	43,369	26,665	25,410
財源	国県支出金	千円	1,957	6,316	1,839
	受益者負担	千円			
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他（使用料・本売上代）	千円	15	497	322
	一般財源	千円	41,397	19,852	23,249
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
結果指標	指定文化財等対応件数	説明	文化財等の調査、確認、事業の実施、来客や問合せへの対応など		
	結果指標量	件	160	140	150
	対前年比	%		87.5%	107.1%
	活動コスト	円	43,369,000	26,665,000	25,410,000
	単位当たりコスト	円	271,056	190,464	169,400

文化財保護管理運営事業:10,315,032円

業務量算定表より

移譲事務交付金:12,000円、国庫補助金:1,827,000円(史跡買上)

特定財源(書籍・冊子販売収入)+(松本寺報告書)

＝右上の対応件数の実績値

＝事業費計

総合評価

域のなりたちの証である文化財を保護、活用し、地域の歴史的文化遺産として、「備前市歴史化基本構想」に基づく事業を着実に展開していくことが大切である。

総合評価（A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**B**

Action

の方向性 ・ 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標

備前市歴史文化基本構想の着実な実施および具体的メニューのスケジュール化。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度		平成14年度から		根拠法令・例規等	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）、旧閑谷学校世界遺産登録検討専門委員規則	
総合計画	大項目	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	問合先	担当課（室）	シティセールス推進課
	中項目	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち		職・氏名	参事　畑下昌代
	小項目	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承		電話	0869-64-1846
事務事業名			02 旧閑谷学校世界遺産登録推進事業	このシート作成に要した時間		2.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	旧閑谷学校や世界遺産に興味関心がある人。
目的（何のために）	旧閑谷学校の建造物とその創学の精神を受け継ぎ、未来の世代へ継承するために世界遺産への登録を目指す。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会が他の民間団体と積極的に協力し、応援活動を盛り上げる。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会事務事業	旧閑谷学校の世界遺産登録推進へ向け、シンポジウムや講座などを開催し、広報活動に務める。	○
	旧閑谷学校世界遺産登録推進事務事業	専門委員の会議を開催し、提案書案を作成する。関係諸機関と調整を行う。	◎

決算額

事業費等		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
事業費	直接事業費	千円	3,027	4,105	2,773
	必要人員 0.78人 / 1.27人 / 1.16人 人件費	千円	7,806	13,040	11,279
	事業費計	千円	10,833	17,145	14,052
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担	千円			
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他（　）	千円			
	一般財源	千円	10,833	17,145	14,052
受益者負担比率		%	―	―	―

結果指標

結果指標名	単位	説明	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
提案書作成委員数		提案書作成に向けた指導延べ委員数			
結果指標量	人		4	3	3
対前年比	%			75.0%	100.0%
活動コスト	円				
単位当たりコスト	円		0	0	0

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
世界遺産フォーラム（シンポジウム）参加者数	目標値（A）	200	200	200	200
	実績値（B）	120	300	90	到達目標値
	達成率（B/A）	60.00%	150.00%	45.00%	200

成果指標設定の考え方・式や説明

世界遺産について理解を深めてもらい、賛同していただける方を増やす必要があるため、成果指標にした。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください　＞

妥当性の評価（市の関与の妥当性必要性／市民ニーズ）

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ■ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- □ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

効率性の評価（コスト手段）

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

有効性の評価（目的達成度市民参画度）

- ■ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ■ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○	○					

説明

平成27年4月に「日本遺産魅力発信推進事業」いわゆる「日本遺産」認定申請を水戸市・足利市・日田市とシリアル型で行い、「近世の教育遺産群―学ぶ心・礼節の本源―」として認定を受けた。日本遺産の補助事業を生かし、正式加盟した「教育遺産世界遺産登録推進協議会」により4市で共同して、情報発信や文化庁への要望など世界遺産登録推進事業を強化していく。また、備前市の伝統文化である備前焼が「日本六古窯」のシリアル型で日本遺産に認定され、構成文化財の中には「旧閑谷学校」も含まれており、より観光事業を強化していきたい。

総合評価

27年度の日本遺産認定を基に地域の活性化も図り、旧閑谷学校の認知度が高まることが期待できる。また、茨城県水戸市・栃木県足利市・大分県日田市とともに「教育遺産世界遺産登録推進協議会」の事業により、世界遺産登録推進を戦略的に推進する。旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会の講演会は約90人の参加が得られた。財政的・人的な負担増にはなっているが、日本遺産認定による地域活性化につながる事業を生かすことで、世界遺産登録推進について波及効果が得られ、4市の専門委員による調査・研究成果の精査や事業協力することにより、今まで以上に効果的・戦略的な推進を図っている。

総合評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

Action

平成30年度の方向性 ・ 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○	○				

取組目標

茨城県水戸市・栃木県足利市・大分県日田市及び備前市で構成する教育遺産世界遺産登録推進協議会より世界遺産登録の暫定リスト入りの提案書等を作成を作成し、世界遺産登録の日本の暫定リスト入りを文化庁へ要望活動も戦略的に行っていく。旧閑谷学校を含む日本遺産認定の国の補助事業が29年度までの予定なので、それ以降の4市で自立した事業を行えるよう検討していく。
また、平成29年度に日本六古窯による備前焼等で日本遺産が認定され、構成文化財の中にも「旧閑谷学校」が含まれており、より観光事業の強化も図っていきたい。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成２７年度	根拠法令・例規等	博物館法 備前市立備前焼ミュージアム設置条例
総合計画 大項目 基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	問合先 担当課（室）	市長室シティセールス推進課
総合計画 中項目 基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	主査　山口　久美子
総合計画 小項目 施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-64-1400
事務事業名	03 備前焼ミュージアム管理運営事業	このシート作成に要した時間	5.0　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	備前焼その他芸術文化に興味関心のある市民及び観光客
目的（何のために）	備前焼その他芸術文化に関する知識及び教養の向上並びに芸術文化の創造及び発信を目的とする。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	備前焼等に関する資料を収集、保管、調査研究及び展示することにより、備前焼に関する情報発信を行う。 また、これら資料等を活用し、学習や体験の機会をつくり、備前焼の知識の向上を図る。

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	備前焼ミュージアム管理運営事業	平成２８年度の入館者数　9,276人 企画展、テーマ展の開催 ・企画展『春の女流作家展』 会期　H28.4.21（木）～5.29（日）、入館者数　1,360人 期間中ギャラリートーク（館長と女流作家2名）1回、女流作家による竜笛披露2回、「イブニング ミュージアム」と題して開館時間の延長を行った。 ・企画展『小さなものに秘めた宇宙』 会期　H28.7.6（水）～8.28（日）、入館者数　1,518人 期間中館長によるギャラリートークを2回開催した。 ・企画展『安来市加納美術館コレクション－おかえり陶陽－』 会期　H28.10.6（木）～11.13（日）、入館者数　2,127人 期間中館長と安来市加納美術館名誉館長による記念講演を開催した。（参加者45人） ・企画展『教育遺産を守る瓦たち　～旧閑谷学校の備前焼瓦～』 会期　H29.1.11（水）～2.5（日）、入館者数　488人 ・企画展『備前焼中世古窯復元 平川忠土窯プロジェクト― 甦る大地の窯 ―』 会期　H29.2.23（木）～3.26（日）、入館者数　832人 期間中トークセッション、窯見学ツアーなどの関連行事を開催した。 ・テーマ展『備前陶心会入賞作品展』 会期　H28.5.26（木）～6.12（日）、入館者数　596人 ・テーマ展『第7回岡山県こども備前焼作品展　入賞作品展』	◎

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

決算額 事業費等		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
事業費	直接事業費	千円		12,225	49,506
事業費	必要人員 人件費	千円		0.90人 7,316	2.03人 14,316
事業費	事業費計	千円	0	19,541	63,822
財源	国県支出金	千円			
財源	受益者負担	千円		1,510	3,149
財源	繰入金	千円			
財源	市債	千円			
財源	その他（寄附金外）	千円			11,891
財源	一般財源	千円		18,031	48,782
受益者負担比率		%	－	7.7%	4.9%

結果指標 結果指標名		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
結果指標	入館者数	説明	備前市立備前焼ミュージアムへの入館者数		
結果指標	結果指標量	人		4,429	9,276
結果指標	対前年比	%			209.4%
結果指標	活動コスト	円		19,541,000	63,822,000
結果指標	単位当たりコスト	円	#DIV/0!	4,412	6,880

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
備前市立備前焼ミュージアムへの入館者数	目標値（A）		4,200	10,000	10,500
	実績値（B）		4,429	9,276	到達目標値
	達成率（B/A）	#DIV/0!	105.45%	92.76%	13,400

成果指標設定の考え方・式や説明

ミュージアムの展示をより多くの皆さんに見ていただくことが本来の目的につながるため、成果指標とした。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください　＞

			妥当性評価
妥当性の評価	市の関与の妥当性必要性	□ 市が実施するよう法令で義務づけられている □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である □ 事業開始当初の目的から変化してきている □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある □ 市民・団体等から要望・要請が強い	A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い C
効率性の評価	コスト手段	□ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい □ 受益者負担率は適正である □ 受益者負担率を見直す余地がある □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い C
有効性の評価	目的達成度 市民参画度	■ 成果指標の設定は適切である □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している □ 成果指標達成率は80%未満となっている □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い C

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

説明

本年度は、ＳＮＳの活用や新聞・雑誌等への広告掲載など、幅広く積極的に情報発信を行う。
『備前焼の変遷』に視点をおいた企画展を実施し、関連行事として「記念講演」や「ワークショップ」を開催し、備前焼についての情報発信を行い、入館者増を図る。

総合評価

５つの企画展と２つのテーマ展に取組んだが、企画展の準備期間が短く、反省点も多いが、記念講演やギャラリートークなども実施し、目標値には届かなかったが、入館者増にはつながったと考えている。
備前焼を含む六古窯が平成２９年度日本遺産に認定されたことにより注目されている。
備前焼は当市の伝統文化・産業であることから備前焼の魅力を発信することは産業面、観光面でも重要と位置付けている。
企画展等の充実、情報発信を積極的に実施することにより目標値は達成できると考えている。

総合評価　A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い　**C**

Action

平成30年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

取組目標

備前焼を含む六古窯の日本遺産認定１周年を記念した「六古窯」に関連した展示を実施する。
今風の展示ができるように展示スペースを改善し、常設展の展示内容についても改善に取り組む。
また、他館との交流事業についても積極的に取組んでいきたい。

備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度		平成3年	
総合計画 大項目	基本目標	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」
総合計画 中項目	基本施策	03	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち
総合計画 小項目	施策	10	歴史文化の活用と伝統文化の継承
事務事業名		04	歴史民俗資料館管理運営事業

根拠法令・例規等	備前市歴史民俗資料館設置条例
問合先 担当課（室）	生涯学習課
問合先 職・氏名	文化財係長　石井　啓
問合先 電話	0869-64-1841
このシート作成に要した時間	2.5　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	備前市の歴史・文化などに興味のある人すべて。
目的（何のために）	郷土の関する資料の収集、調査を行い、展示などを通して地域の文化や歴史についての理解をふかめる。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	地域に根差した企画展、ワークショップを展開し、地域の子供たちが気軽に来館できる資料館にしたい。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
歴史民俗資料館管理運営事業	企画展「片上鉄道ーこちら廃線から25年ー」、「びぜん酒造屋さんの日々」、「ゆうびん、おてがみ、あれやこれや」を開催し、備前市の歴史・文化を広く紹介した。	○

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成26年度実績		平成27年度実績		平成28年度実績	
決算額 事業費	直接事業費	千円		9,184		10,966		8,914
	必要人員／人件費	千円	0.20人	1,750	0.15人	1,318	0.14人	1,040
	事業費計	千円		10,934		12,284		9,954
決算額 財源	国県支出金	千円		628		1,841		1,747
	受益者負担	千円						
	繰入金	千円						
	市債	千円						
	その他（書籍・冊子売払収入）	千円		86		108		77
	一般財源	千円		10,220		10,335		8,130
受益者負担比率		%		－		－		－

歴史民俗資料館管理運営事業:8,914,919円

業務量算定表より

国庫補助事業:1,747,000円(民俗)

特定財源(書籍・冊子販売収入):77,000円

結果指標名		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
結果指標	年間入館者数	説明	年間入館者数		
	結果指標量		2,427	2,631	1,976
	対前年比	%		108.4%	75.1%
	活動コスト	円	10,934,000	12,284,000	9,954,000
	単位当たりコスト	円	4,505	4,669	5,037

＝右上の年間入館者数の実績値

＝事業費計

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
年間入館者数	目標値（A）	3,000	3,000	2,700	2,000
	実績値（B）	2,427	2,631	1,976	
	達成率（B/A）	80.90%	87.70%	73.19%	2,000

歴史資料調査員会議資料より

成果指標設定の考え方・式や説明

地域の方々が気楽に来館し、郷土の歴史や文化にふれ、地域の魅力を再確認するため年間入館者数を設定した。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価（市の関与の妥当性必要性／市民ニーズ）

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ■ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）: **C**

効率性の評価（コスト／手段）

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）: **C**

有効性の評価（目的達成度／市民参画度）

- ■ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ■ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）: **C**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：地域のなりたちを学習するための施設として企画展、ワークショップを積極的に展開し、地域の子供たちも含めて誰もが気軽に観覧できる施設を目指している。

総合評価

企画展「片上鉄道-こちら廃線から25年-」、連携展示「びぜん酒造屋さんの日々」、「ゆうびん、おてがみ、あれやこれ」を開催した。短期間ではあるが特別に「備前国和気郡井田村延原家文書」を日本遺産の関連で展示した。「備前市の歴史・文化」に関して情報発信はできているが、学芸員が1名体制となり管理運営のコスト削減は限界である。

総合評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）: **B**

Action

平成30年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標：備前市歴史文化基本構想に基づき、市内に複数ある文化施設の役割分担を明確化し、施設を運営していく。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成９年	根拠法令・例規等	加子浦歴史文化館設置条例
総合計画	大項目	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	問合先 担当課（室）	生涯学習課
	中項目	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	文化財係長　石井　啓
	小項目	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-64-1841
事務事業名			05 加子浦歴史文化館管理運営事業	このシート作成に要した時間	6.0 時間

事業の目的　（Plan）

対象（誰・何に対して）	市内外を問わず、小・中・高の学生、大学生、また生涯学習をしようとする人。歴史研究家・郷土史研究家（愛好家）・文学研究家・観光客・資料寄託者・資料寄贈者。
目的（何のために）	①郷土に関する歴史・民俗・文学資料の収集と保存に努め、それらを後世に伝え、遺す。 ②①で収集した資料をもとに常設・企画展を行い、当館利用者の文化的向上と調査研究の一助となることを目的とする。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	当館の入館者のうち、市内の入館者は少なくほとんどが観光客である。観光客数は景気により左右されるので、当館が発足した際の「温故知新」をテーマに、日本文化を発信するスポットとしての役割を果たしたい。

事業の実績　（Do）

目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	加子浦歴史文化館管理運営事業	企画展「島の学校写真展」を開催し、備前市の歴史・文化を広く紹介した。	

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
加子浦歴史文化館利用者数	目標値（A）	2,600	2,600	2,400	1,700
	実績値（B）	2,584	2,338	1,692	到達目標値
	達成率（B/A）	99.38%	89.92%	70.50%	1,700

成果指標設定の考え方・式や説明：

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事務事業の評価　（Check）

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ■ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

効率性の評価

コスト手段

- ■ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- ■ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度市民参画度

- ■ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ■ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

事業の目的やその数値目標から有効性を評価

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：地域のなりたちを学習する施設として、改めて企画展やＷＳ等の計画をスケジュール化を行う。

事業費等

決算額		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
事業費	直接事業費	千円	5,433	4,685	5,868
	必要人員 人件費	千円	1.01人 8,141	0.84人 6,567	0.09人 739
	事業費計	千円	13,574	11,252	6,607
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担	千円	448	384	280
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他（書籍・物品売払収入）	千円	19	27	12
	一般財源	千円	13,107	10,841	6,315
受益者負担比率		%	3.3%	3.4%	4.2%

使用料：280,330円

結果指標

結果指標	結果指標名	単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
一年間の入館者数	説明		入館者数に文化講座参加者数を加えたもの		
	結果指標量		2,584	2,338	1,692
	対前年比	%		90.5%	72.4%
	活動コスト	円	13,574,000	11,252,000	6,607,000
	単位当たりコスト	円	5,253	4,813	3,905

入館者数：1,692人

総合評価

「島の学校写真展」などの企画展や、貸ギャラリー「木村玉舟と瀬戸内想彫会展」を開催した。全体の入館者数は昨年度よりかなり減となっている。平成28年度は正職員の配置はなく、管理運営のコスト削減は限界である。

総合評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

平成30年度の方向性 ・ 取組目標　（Action）

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標：備前市歴史文化基本構想に基づき、市内に複数ある文化施設の役割分担を明確化し、施設を運営していく。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成２５年
総合計画	大項目	基本目標	02　自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」
	中項目	基本施策	03　豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち
	小項目	施　策	10　歴史文化の活用と伝統文化の継承
事務事業名			06　埋蔵文化財センター管理運営事業

根拠法令・例規等	備前市埋蔵文化財管理センター設置条例
問合先 担当課（室）	生涯学習課
問合先 職・氏名	文化財係長　石井　啓
問合先 電　話	0869-64-1841
このシート作成に要した時間	2.5　時間

Plan

事業の目的

対　象（誰・何に対して）	備前市の歴史・文化などに興味のある人すべて。
目　的（何のために）	発掘調査等により出土した文化財の整理・保管を行う。合わせて調査研究も行い、その成果の活用をはかる。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	地域遺跡に根差した企画展、ワークショップを展開し、地域の子供たちが気軽に来館できる資料館にしたい。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	備前市埋蔵文化財管理センター運営事業	特集展「備前市の遺跡Part1　山崎古窯跡」、「備前市の遺跡Part2　長縄手遺跡」、「備前市の遺跡Part3　船山遺跡」、「備前市の遺跡Part4　閑谷学校」、「びぜんトックリーズ～窯跡出土徳利勢揃い～」、ワークショップ「求！鏡工人」、※地域の特性を活かした史跡総合活用支援推進事業、]岡山県こども備前焼作品展製作ワークショップ、などの子ども向けワークショップなどを開催し、備前市の歴史・文化を広く紹介した。	◎

事業費等

決算額			単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
事業費	直接事業費		千円	9,041	10,857	11,867
	必要人員	人件費	千円	0.14人　1,338	0.11人　1,013	0.57人　5,017
	事業費計		千円	10,379	11,870	16,884
財源	国県支出金		千円	3,029	3,337	3,924
	受益者負担		千円			
	繰入金		千円			
	市債		千円			
	その他（書籍・冊子売払収入、土地使用料）		千円	128	136	117
	一般財源		千円	7,222	8,397	12,843
受益者負担比率			%	－	－	－

結果指標	結果指標名	単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
	年間入館者数	説明	年間入館者数		
	結果指標量		1,204	1,143	1,200
	対前年比	%		94.9%	105.0%
	活動コスト	円	10,370,000	10,857,000	11,867,000
	単位当たりコスト	円	8,613	9,499	9,889

埋蔵文化財管理センター運営事業:11,867,287円

業務量算定表より

特定財源(書籍・冊子販売収入):6,000円+(土地使用料)111,200円

＝右上の年間入館者数の実績値

＝事業費計

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標であるの成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
年間入館者数	目標値（A）	1,400	1,300	1,200	1,300
	実績値（B）	1,204	1,143	1,200	到達目標値
	達成率（B/A）	86.00%	87.92%	100.00%	1,300

成果指標設定の考え方・式や説明

地域の方々が気楽に来館し、郷土の歴史や遺跡などの文化にふれ、地域の魅力を再確認するため年間入館者数を設定した。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

			妥当性評価	効率性評価	有効性評価
妥当性の評価	市の関与の妥当性必要性	□ 市が実施するよう法令で義務づけられている			
		□ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす			
		■ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない			
		□ 事業の内容が一部の受益者に偏っている			
		□ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている			
		■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である			
		□ 事業開始当初の目的から変化してきている			
		□ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている			
		□ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある			
	市民ニーズ	■ 市民・団体等から要望・要請が強い			
			A B C D E 高や普や低 いや通やい 高　低 い　い	A B C D E 高や普や低 いや通やい 高　低 い　い	A B C D E 高や普や低 いや通やい 高　低 い　い
			C		
効率性の評価	コスト手段	□ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している			
		□ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある			
		□ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある			
		■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい			
		□ 受益者負担率は適正である			
		□ 受益者負担率を見直す余地がある			
		□ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない			
		□ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある			
		■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている			
				C	
有効性の評価	目的達成度市民参画度	■ 成果指標の設定は適切である			
		■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである			
		■ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している			
		□ 成果指標達成率は80%未満となっている			
		□ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない			
		□ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい			
		■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している			
		□ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している			
					C

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：地域の遺跡や埋蔵文化財を紹介する企画展、やきものに親しむワークショップを積極的に展開し、地域の子供たちを含めて誰もが気軽に来館できるセンターを目指している。

総合評価

特集展「備前市の遺跡ＰＡＲＴ１～４」でびぜんしないの遺跡等を紹介した。また連携企画展で「びぜんトックリーズ～窯跡出土徳利勢揃い」を開催した。子供向けのＷＳでは「求む！鏡工人～鏡づくりのワークショップ」を開催したが、全体の入館者数は微増傾向にとどまった。「備前市の歴史」に関して情報発信はできているが、来館者のさらなる掘り起しには至っていない状況である。

総合評価
A B C D E 高や普や低 いや通やい 高　低 い　い
C

Action

30年度の方向性 ・ 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標：備前市歴史文化基本構想に基づき、市内に複数ある文化施設の役割分担を明確化し、施設を運営していく。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成１７年度～
総合計画	大項目	基本構想	02　自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」
	中項目	基本計画	03　豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち
	小項目	施策	10　歴史文化の活用と伝統文化の継承
事務事業名			07　吉永美術館管理運営事業

根拠法令・例規等	備前市吉永美術館設置条例
問合先 担当課（室）	生涯学習課
問合先 職・氏名	主査・中原静枝
問合先 電話	８４－３８３９
このシート作成に要した時間	2.0　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	郷土の歴史に興味のある方、美術品をギャラリーとして展示したい方
目的（何のために）	郷土に関する資料の収集・保存を行うと同時に、展示によって郷土の歴史や文化についての理解・認識を深め、郷土の財産として後世に伝える。また、貸しギャラリーとしての貸館業務を行う。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	郷土の歴史や文化、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与する。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
吉永美術館管理運営事業	施設の運営・維持管理・貸館業務	○

事業費等		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	566	542	485
	必要人員 人件費		0.03人 228	0.01人 76	0.03人 238
	事業費計		794	618	723
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担		14	10	10
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源		780	608	713
受益者負担比率		%	1.8%	1.6%	1.4%

結果指標名		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
結果指標	吉永美術館入館者数	説明	吉永美術館入館者数		
	結果指標量		771	717	445
	対前年比	%		93.0%	62.1%
	活動コスト	円	780,000	618,000	723,000
	単位当たりコスト		1,012	862	1,625

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標にあった成果指標に留意しな

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
年間入館者数	目標値（A）	800	800	800	800
	実績値（B）	771	717	445	到達目標値
	達成率（B/A）	96.38%	89.63%	55.63%	800

成果指標設定の考え方・式や説明

入館者数が増加することにより、郷土の歴史や文化、美術に関する知識及び教養の向上を図っていると考えられる。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価 市の関与の妥当性必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ■ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ■ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ■ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

妥当性評価：D

市民ニーズ

- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

効率性の評価 コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ■ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価：C

有効性の評価 目的達成度市民参画度

- ■ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ■ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価：D

評価区分：A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：吉永総合支所別棟の取り壊しが行われ、隣にある美術館が目立つようになった。市民の方々へ建物が美術館であること、所蔵展を開催中であることをアピールし入館者の増加を図っていく。
29年度は文化財係におられる学芸員さんに協力・指導をお願いしたい。
また、こども園・小中学校の生徒の展示会や市民の方々への貸しギャラリーとして利用していただけるよう、ＰＲしていく。

総合評価

吉永総合支所別棟の取り壊しが行われ、美術館がいろんな角度より目立つようになった。
入館者数は前年度と比較すると減となった。MOAの児童作品展での来館者数がほぼ半減したからだと思われる。昨年同様全４回の所蔵品展での入館者数は１桁であった。７つのテーマを順繰りに展示しているため、展示作品がその都度同じようになり、１度見たら再度の来館が見込めない。一般の方より「良い美術品を持たれているのに、もったいない」とご指摘を受けたこともあるが、知識の全くない職員では価値のある美術品すら分からず、順繰りに展示するだけで精一杯である。文化財係におられる学芸員の協力・指導は残念ながらできていない。

総合評価：D

Action

平成30年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：春・夏・秋・冬全４回の所蔵展開催等を行うとともに、文化財係におられる学芸員に協力・指導をしていただきながら、入館者数の増加を図り、引き続き維持管理を行っていく。
また市民の方々へ気軽に貸しギャラリーとして利用していただけるよう、ＰＲしていく。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成4年～	根拠法令・例規等		文化芸術基本振興法
総合計画	大項目	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	問合先	担当課（室）	文化スポーツ課
	中項目	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち		職・氏名	係長　瀬尾茂樹
	小項目	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承		電話	0869－64－1837
事務事業名			08 芸術文化活動推進事業	このシート作成に要した時間		1.0　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	市内の子どもから大人まで、芸術・文化に興味を持つ人。これから文化芸術活動を地域で行おうとする人。
目的（何のために）	地域の中で芸術文化に親しむ機会を提供し、地域の文化力を高めていくことで、心豊かな市民生活及び活力ある地域社会の実現に寄与する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	こどもから大人まで豊かな感性や創造性を養い、活力ある市民生活と地域文化の発展に貢献する。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	備前吹奏楽フェスティバル	音楽活動を通して、小学生・中学生・高校生・社会人などの交流をを促進し、グループ活動の成果発表の機会を設ける。	○
	岡山県こども備前焼作品展事業	岡山県の伝統文化である備前焼を通して、次世代を担う児童生徒が豊かな感性や創造性を養い、活力ある市民生活と地域文化の発展に貢献することを目的に県内在住の高校生以下のこどもの備前焼作品を対象にした公募作品展の開催。	◎
	市民文学賞事業	市民の文学創作活動を奨励し、豊かな地域文化の振興を目的に創設。	○
	備前アートプロジェクト	伝統工芸である備前焼の新たな可能性を追求しながら、備前焼のさらなる振興と地域の活性化に資することを目的として開催。	○
	文化鑑賞会	支え合う心、音楽・芸術による東日本大震災への復興の後押しをテーマとした映画の上映を通し、被災地復興の後押し、絆や支え合いの気持ちの啓発を促すとともに備前市の文化の向上を図る。	▲
	伝統文化鑑賞事業	古典舞踊とオリジナルの創作舞踊を演じることにより日本舞踊を幅広い世代に広げ、日本舞踊を再発見するきっかけにすることと、伝統を踏まえ、新しい風を起こすことを目的として開催。	▲

決算額

事業費等		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
事業費	直接事業費	千円	955	1,243	2,792
	必要人員 人件費		0.61人 5,707	0.51人 3,743	1.27人 10,251
	事業費計		6,662	4,986	13,043
財源	国県支出金	千円			300
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（福武教育文化財団文化活動助成			150	250
	一般財源		6,662	4,836	12,493
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標

結果指標名		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
応募者数		説明	岡山県こども備前焼作品展応募者数		
	結果指標量	人	584	1,057	1,067
	対前年比	%		181.0%	100.9%
	活動コスト	円	3,675,000	2,691,000	3,848,000
	単位当たりコスト		6,293	2,546	3,606

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
岡山県こども備前焼作品展応募者数	目標値（A）	800	600	1060	1070
	実績値（B）	584	1057	1067	到達目標値
	達成率（B/A）	73.00%	176.17%	100.66%	1200

成果指標設定の考え方・式や説明

23年度以降の「岡山県こども備前焼作品展」の応募者数を指標にしている。次世代を担う児童生徒を対象にしているため、その応募者数がひとつの指標になると考える。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください　＞

妥当性の評価	市の関与の妥当性必要性	□ 市が実施するよう法令で義務づけられている	妥当性評価 A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い：C
		□ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
		□ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない	
		□ 事業の内容が一部の受益者に偏っている	
	市民ニーズ	□ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
		■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
		□ 事業開始当初の目的から変化してきている	
		□ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	
		□ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	
		□ 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト手段	□ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している	効率性評価 A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い：C
		□ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある	
		□ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある	
		□ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい	
		□ 受益者負担率は適正である	
		□ 受益者負担率を見直す余地がある	
		□ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	
		□ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
		■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	
有効性の評価	目的達成度市民参画度	■ 成果指標の設定は適切である	有効性評価 A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い：B
		■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである	
		■ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している	
		□ 成果指標達成率は80%未満となっている	
		□ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
		□ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい	
		■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
		■ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
				○			

説明：市民の参画が無く、一時的なイベント的要素の強い「文化鑑賞会」と「伝統文化鑑賞事業」を廃止し、他の事業をより重点的に促進していく必要がある。

総合評価

「岡山県こども備前焼作品展」は事業内容を見直し（応募部門の増設）により大幅な応募者増による効率性及び有効性を高めることができている。「吹奏楽フェスティバル」は実行委員会の活動によりコストの削減や市民参画度ほぼ満足できるものである。「市民文学賞」は創設されて間のない事業であり、事業への参加を促進していく必要がある。

総合評価（A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い）：C

Action

平成30年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：「岡山県こども備前焼作品展」及び「吹奏楽フェスティバル」は現状継続により、「市民文学賞」は学校や関係団体に参加協力を促進し文学創造活動の奨励していくことにより、市の文化芸術活動を振興していく。